

ひまわり選びのポイント！

夏を代表する花とって…皆さんが思い浮かべる花は何ですか？

多くの方が「ひまわり」と答えるのではないのでしょうか。

英語でも‘SUN FLOWER’＝‘太陽の花’と言うように、ひまわりの明るい色合いや凜とまっすぐに伸びている姿は見る人に元気な気持ちを与えてくれますよね！！

しかし、切り花として売られているひまわり、夏の花だからといって暑さに強い訳ではないようなのです。

ひまわりの産地様にひまわりを長く楽しむためのコツについてうかがってみたところ、こんな話がきけました。『ひまわりは一般的に浅水でいけると長持ちするといわれているけれど、うちのひまわりは肥料がぬけているから茎が白く道管がしっかりとっていて、水にいけても腐りにくい。だから、深水でいけても腐らず、花が長持ちするんだよ。』

ひまわりといえばガーベラ同様、浅水に活けることが鉄則なお花！

本当に深水で活けてお花はもつの！？

そこで今回は、ひまわりを長く楽しむための効果的な方法を検証するため、いくつかの区分で実験を行いました。

※深水とは…花瓶の水がたっぷり入って深い状態。深水に花を挿すと水に浸かっている茎の部分が多いため、水圧により花に水があがりやすい。しかし、水に浸かっている面積が大きい分その分バクテリアが繁殖しやすく、水が腐りやすい。ガーベラやヒマワリなど茎に毛が生えている花には向かないといわれている。

浅水とは…花瓶の水が少なく浅い状態。水に浸かっている面積が小さいため茎がくさりにくい。

◆実験概要◆

品種：サンリッチオレンジ

区分：〈試験室 A：平均 25°C、湿度 60%前後〉

- 水(8cm)
- 切り花栄養剤(8cm)
- 浅水(3cm)
- 深水(10cm)

〈試験室 B：平均 29.6°C(最高 35.0°C最低 23.5°C)〉

- 水(8cm)

各 5 本 × 5 区分 = 計 25 本



◆実験結果◆

区分	日持ち日数
水(8cm)	7.8
切り花栄養剤 (8cm)	8
深水(10cm)	9
浅水(3cm)	8.5
試験室 B	8

日持ち終了理由は全区分で花卉の萎れや花散りでした。
また、切り花栄養剤を使用することにより茎の変色や葉の黄変が見られましたが、花卉には影響ありませんでした。

(3日目の様子)



水



深水

(8日目の様子)



水



深水

◆まとめ◆

今回の実験ではすべての区分で1週間以上、花を楽しむことができました。

また、深水では平均9日の花持ちが認められ、次いで浅水の平均8.5日でした。

本来、ひまわりは浅水の方が花持ちが良いとされていますが、今回の実験では深水が最も長く日持ちするという結果になりました。

そこで産地様に良いひまわりを選ぶポイントについてお聞きしたところ……

次のようなポイントを教えて頂きました。



ポイント1 茎が固い

ポイント2 茎と葉の色が薄い

ポイント3 一番上の葉が小さい

ポイント4 花弁が立っている(サンリッチオレンジの場合)

つまり、茎と花弁を見ることによって良いひまわりがわかりますね。

今回の実験でご協力して頂いた産地様のひまわりは上記のポイントをすべてクリアしていたので、深水でも長く日持ちしたのかもしれませんが。

また、産地様はひまわりの取り扱いについても、花弁と花弁がこすれあったり、強い衝撃を与えたりすると、花弁の散りの原因や花持ちの短縮にも影響するので、気をつけるようにともおっしゃっていました。

是非とも、以上のことを参考に、夏のひまわりを長くお楽しみください！

株式会社 大田花き
品質カイゼン室

